

# 太陽の郷(茅ヶ崎市南湖七丁目)の生物

岸 一弘\*

## 1 はじめに

太陽の郷は茅ヶ崎市(以下、市)の南西部、南湖七丁目に所在する有料老人ホームで、敷地面積は22,700 m<sup>2</sup>である。当地の生物相については、これまで断片的な記録が散見されものの、まとまった報告はなされていない。

そこで、同地の生物相について2014年11月から2015年10月にかけて5回の調査を実施したので、その概要について報告する。

なお、調査にご協力いただいた茅ヶ崎市文化生涯学習課の平山孝通氏、西浜中学校校長の日下部雅彦氏、同校教頭の名取龍彦氏、調査に際し便宜を図っていただいた(株)南湖荘の後藤 元 代表取締役、石原隆則支配人に感謝申し上げる。

## 2 調査地の概要

太陽の郷は海岸砂防林北側の砂丘地に立地し、海岸線から約260mの距離にある。若干の起伏はあるものの、基本的には平坦な地形である。

敷地中央～北側の庭園の芝地などは地表近いレベルで草刈り管理されているが、チガヤ、ススキなどの草が残されている部分もあり、西～西南周辺部には帯状のまとまった樹林が見られる。庭園には2つの池があり、住棟脇にも止水環境が見られる。



図1. 敷地南側から北側を望む

## 3 調査日

- ・2014年11月7日 10:15～11:45
- ・2014年11月14日 09:20～11:25
- ・2015年4月22日 13:45～16:15
- ・2015年7月15日 09:10～10:50
- ・2015年10月21日 13:30～15:50

## 4 調査方法

住棟周辺を除く草地、樹林地や水辺環境を対象に調査を実施した。目視・双眼鏡による観察を主とし、必要に応じ、撮影・採集を行った。

## 5 結果及び考察

本報告では、5回の調査で確認された種類の概要について記載する。詳細なデータについては、別途報告する予定である。

### 1) 植物

確認された植物は、以下のとおり48科122種である。主として自生種について記録したが、木本類については一部植栽された種類も記録に含めた。

#### ウラボシ目

ヒメシダ科：ミドリヒメワラビ

メシダ科：イヌワラビ

#### マツ目

マツ科：クロマツ

#### バラ目

アサ科：ムクノキ、エノキ、ケヤキ

クワ科：イヌビワ、ヤマグワ

#### ブナ目

ブナ科：クリ(植栽)、マテバシイ(植栽)、クヌギ

#### フトモモ目

アカバナ科：メマツヨイグサ(外来生物法により要注意外来生物に指定されている：以下、要注)、コマツヨイグサ(要注)

#### ナデシコ目

ナデシコ科：オランダミミナグサ、コハコベ

タデ科：ミズヒキ、イヌタデ、イタドリ、スイバ、

## ギシギシ

オシロイバナ科 : オシロイバナ(逸出帰化)

## クスノキ目

クスノキ科 : クスノキ(植栽), ヤブニッケイ, タ  
ブノキ, シロダモ

## ユリ目

ユリ科 : ヤブカンゾウ, ヤブラン

## キジカクシ目

ヒガンバナ科 : ノビル, ヒガンバナ(旧帰化)

## ヤシ目

ヤシ科 : ワジュロ

## イネ目

イグサ科 : スズメノヤリ

カヤツリグサ科 : アオスゲ, ハタガヤ

イネ科 : コバンソウ(逸出帰化), ヒメコバンソウ  
(帰化), ヒゲナガスズメノチャヒキ(帰化), チガヤ,  
ススキ, シバ(植栽), セイバンモロコシ(帰化)

アズマネザサ, クマザサ(逸出帰化)

## キンポウゲ目

アケビ科 : アケビ, ミツバアケビ

ツヅラフジ科 : アオツヅラフジ

## ケシ目

ケシ科 : ナガミヒナゲシ(帰化)

## コショウ目

ドクダミ科 : ドクダミ

## ツツジ目

カキノキ科 : カキノキ(植栽)

ツバキ科 : ヤブツバキ, ハマヒサカキ(植栽), ヒ  
サカキ

## リンドウ目

アカネ科 : ヘクソカズラ, オオフタバムグラ(要  
注)

キョウチクトウ科 : ツルニチニチソウ(植栽)

## シソ目

モクセイ科 : トウネズミモチ(逸出帰化), オオバ  
イボタ

オオバコ科 : タチイヌノフグリ(帰化), フラサバ  
ソウ(帰化), オオイヌノフグリ(帰化)

シソ科 : ヒメオドリコソウ, イヌゴマ

ハエドクソウ科 : トキワハゼ



図2. 敷地南側の景観

## シソ類

ムラサキ科 : キュウリグサ

## ナス目

ナス科 : ワルナスビ

ヒルガオ科 : ハマヒルガオ, カロリナアオイゴケ  
(帰化)

## キク目

キク科 : ヨモギ, ハルジオン(要注), ヒメジョオ  
ン(要注), フキ, セイタカアワダチソウ(要注), ノ  
ゲシ, セイヨウタンポポ(要注), オオキンケイギク  
(外来生物法に基づき特定外来生物に指定されてい  
る), アラゲハンゴンソウ(帰化), オニタビラコ,  
センダングサ, コセンダングサ(要注)

## マツムシソウ目

スイカズラ科 : スイカズラ, サンゴジュ(一時逸  
出), シロノヂシャ(帰化)

## セリ目

トベラ科 : トベラ

ウコギ科 : カクレミノ, キツタ

セリ科 : セリ

## バラ目

バラ科 : ヘビイチゴ, シャリンバイ, ノイバラ,  
ナワシロイチゴ, カジイチゴ

## マメ目

マメ科 : マルバヤハズソウ, メドハギ, ネコハギ,  
イヌハギ, ミヤコグサ, クズ, ハリエンジュ(要注),  
シロツメクサ(逸出帰化), コメツブツメクサ(帰  
化), ヤハズエンドウ, スズメノエンドウ, カスマ  
グサ, フジ, オッタチカタバミ(帰化), エニシダ(植  
栽)

グミ科 : ツルグミ, アキグミ

キントラノオ目

トウダイグサ科 : アカメガシワ, ナンキンハゼ(植栽)

ユキノシタ目

ユズリハ科 : ユズリハ(植栽)

ムクロジ目

センダン科 : センダン(植栽)

ウルシ科 : ヌルデ, ハゼノキ

ニシキギ目

モチノキ科 : モチノキ

ニシキギ科 : ツルウメモドキ, マサキ, ニシキギ(植栽)

ブドウ目

ブドウ科 : ノブドウ, ヤブカラシ, ツタ, エビヅル

クロソマ目

キブシ科 : キブシ(ハチジョウキブシ)

2014年11月7日の調査で、神奈川県での減少傾向が著しいため県の絶滅危惧IB類に位置づけられているイヌハギが、敷地の北西部で確認された。イヌハギの自生するエリアが売却されることが判明したので、事前にミティゲーション措置を講じた(後述)。

茅ヶ崎市自然環境評価調査(以下、評価調査)において市の準絶滅危惧種に位置づけられているミヤコグサが敷地内各所に群生していることを確認したほか、評価調査において海岸指標種に位置づけられたハマヒルガオも確認された。



図3. 敷地北西部で確認されたイヌハギ

1997年4月23日に同地で記録されたコウボウ(イネ科)(茅ヶ崎ネイチャークラブほか, 1998)についても調査を行ったが、確認することはできなかった。

特定外来生物に指定されているオオキンケイギクについては、駆除をお願いした。

## 2) 動物

### ① 昆虫綱(昆虫類)

確認された昆虫類は、以下のとおり45科91種である。

カゲロウ目

コカゲロウ科 : コカゲロウの一種(幼虫)

トンボ目

イトトンボ科 : アオモンイトトンボ(成虫)

アオイトトンボ科 : オオアオイトトンボ(成虫)

ヤンマ科 : ギンヤンマ(成虫), クロスジギンヤンマ(幼虫・羽化殻)

トンボ科 : ショウジョウトンボ(幼虫・成虫), シオカラトンボ(幼虫・成虫), オオシオカラトンボ(成虫), アキアカネ(成虫), コシアキトンボ(成虫), ウスバキトンボ(成虫・羽化殻)

バッタ目

バッタ科 : ショウリョウバッタ(幼虫・成虫), クルマバッタモドキ(成虫)

オンブバッタ科 : オンブバッタ(幼虫・成虫)

コオロギ科 : ハラオカメコオロギ(鳴き声), ツヅレサセコオロギ(鳴き声)

ヒバリモドキ科 : シバズ(成虫; 鳴き声も),

カネタタキ科 : カネタタキ(鳴き声)

キリギリス科 : ヤブキリ(若齢幼虫), クビキリギス(成虫), クサキリ(成虫), ホシササキリ(成虫), ツユムシ(成虫)

カマキリ目

カマキリ科 : オオカマキリ(幼虫・成虫), ハラビロカマキリ(卵鞘)

カメムシ目

アオバハゴロモ科 : アオバハゴロモ(幼虫・成虫)

セミ科 : ニイニイゼミ(鳴き声), クマゼミ(鳴き声), ミンミンゼミ(成虫・鳴き声), アブラゼミ

アメンボ科 : アメンボ, ヒメアメンボ, ヤスマツ



図4. 敷地中央西側にある池



図5. エサキアメンボ♀

アメンボ, エサキアメンボ

イトアメンボ科：ヒメイトアメンボ

マツモムシ科：コマツモムシ

サシガメ科：ヨコヅナサシガメ(終齢幼虫)

マルカメムシ科：マルカメムシ

#### ハエ目

ミギワバエ科：カマバエの一種

クロバエ科：ツマグロキンバエ

ケバエ科：メスアカケバエ

ハナアブ科：ホソヒラタアブ, オオハナアブ

ムシヒキアブ科：ナミマガリケムシヒキ, シオヤアブ, アオメアブ

ツリアブ科：クロバネツリアブ

#### ハチ目

タマバチ科：クヌギエダイガフシ(クヌギエダイガタマバチの虫こぶ)

アリ科：クロヤマアリ

クモバチ科：ベッコウクモバチ

スズメバチ科：クロスズメバチ, コガタスズメバ

チ, キアシナガバチ(女王), セグロアシナガバチ

ツチバチ科：ヒメハラナガツチバチ

ミツバチ科：クマバチ

#### コウチュウ目

ゲンゴロウ科：ハイイロゲンゴロウ, マメゲンゴロウ

コガネムシ科：ヒラタハナムグリ

テントウムシ科：ナナホシテントウ, ナミテントウ

ハムシ科：ヨモギハムシ

#### チョウ目 蝶類

アゲハチョウ科：アオスジアゲハ(幼虫・成虫), アゲハ(成虫), クロアゲハ(成虫), ナガサキアゲハ(成虫)

シロチョウ科：モンシロチョウ(成虫), キタキチョウ(成虫), モンキチョウ(成虫)

シジミチョウ科：ウラギンシジミ(成虫), ムラサキシジミ(成虫), ムラサキツバメ(成虫, 食痕：マテバシイ), ヤマトシジミ(成虫), ベニシジミ(成虫), ツバメシジミ(成虫), ウラナミシジミ(成虫)

タテハチョウ科：ツマグロヒョウモン(成虫), キタテハ(成虫), ヒメアカタテハ(成虫), アカタテハ(成虫), ゴマダラチョウ(成虫), アカボシゴマダラ(幼虫・成虫)(要注)

セセリチョウ科：チャバネセセリ(成虫), イチモンジセセリ(成虫)

#### チョウ目 蛾類

ホソハマキモドキガ科：ヘリグロホソハマキモドキ(成虫)

ツトガ科：シロオビノメイガ(成虫)

スズメガ科：ホシホウジャク(成虫)

ドクガ科：モンシロドクガ(成虫)

ヤガ科：キクキンウワバ(成虫), アワヨトウ(成虫), ヒメエグリバ(成虫), アヤモクメキリガ(幼虫)

敷地内にある3つの池等で水生生物調査を実施したところ, すべての止水域でトンボ類などの水生昆虫が確認された。住棟脇の池(水路)では, 最も多くのトンボ類が確認され, トンボ類の生息環境として良好であることが確認された。また, 市内南部ではほとんど確認できないマメゲンゴロウも記録され

た。

敷地中央西側にある池では、県の絶滅危惧 IA 類に位置づけられているエサキアメンボが記録された。市内はもとより湘南地域でも過去の記録がまったくなく、県内でも過去に数か所しか記録のない種類である。本来はヨシの生える沼地に生息する種類で、1♀のみの記録であることから、外部から飛来した可能性が高いが、継続的な調査が必要である。

南側の草地で、スズメノヤリを食草とするヘリグロホソハマキモドキを多数確認した。神奈川県昆虫誌(2004)では県内未記録とされ、坂本・名尾(2013)でも横須賀市鷹取山の 1ex. が報告されているだけの種類である。



図 6. ヤハズエンドウの葉に静止するヘリグロホソハマキモドキ

## ②クモ目

クモ目を対象とした調査は実施しなかったが、以下のとおり 5 科 9 種が記録された。

ヒメグモ科：シロカネイソウロウグモ

コモリグモ科：コモリグモの一種

ジョロウグモ科：ジョロウグモ(幼体・成体)

コガネグモ科：ゴミグモ、マルゴミグモ(幼体)、ナガコガネグモ(幼体・成体)

ハエトリグモ科：マミジロハエトリ、ネコハエトリ(幼体)、アダンソンハエトリ?

## ③ワラジムシ目

ミズムシ科：ミズムシ

## ④両生類 無尾目

ヒキガエル科：アズマヒキガエル(幼生)

敷地中央西側にある池で、アズマヒキガエル幼生

を多数確認した。市内では減少傾向にある種類で、市の準絶滅危惧種に位置づけられている。市の南部では宅地化の進行に伴って激減しているが、同地は市内南部地域におけるアズマヒキガエルの貴重な生息地であることが確認された。

## ⑤有鱗目(爬虫類)

カナヘビ科：ニホンカナヘビ

トカゲ科：ヒガシニホントカゲ

## ⑥鳥 類

確認された鳥類は、以下のとおり 17 科 24 種である。

### ハト目

ハト科：キジバト

### ペリカン目

サギ科：アオサギ

### タカ目

タカ科：トビ

### キツツキ目

キツツキ科：コゲラ

### スズメ目

モズ科：モズ

カラス科：オナガ(声)、ハシブトガラス(声)、ハシボソガラス(声)

シジュウカラ科：シジュウカラ(声)

ツバメ科：ツバメ

ヒヨドリ科：ヒヨドリ

ウグイス科：ウグイス

メジロ科：メジロ(声)

ムクドリ科：ムクドリ

ヒタキ科：ツグミ、イソヒヨドリ、ジョウビタキ

スズメ科：スズメ

セキレイ科：ハクセキレイ、ビンズイ

アトリ科：カワラヒワ、シメ

ホオジロ科：ホオジロ、アオジ

確認された種類は多くないが、評価調査で樹林指標種に位置づけられているウグイス、草地指標種に位置づけられているモズ、ホオジロ、海岸指標種に位置づけられているビンズイが確認された。

⑥哺乳類

トガリネズミ目

モグラ科：アズマモグラ(モグラ塚)

坂本繁夫・名尾良英, 2013. 三浦半島産蛾類目録追録

III. かまくらちょう, (83):38-52.

## 6 開発に伴うミティゲーション

2014年11月14日の調査後にイヌハギの自生するエリアが売却されることが判明したので、2015年4月15日にミヤコグサ、ネコハギ等を表土と共に移植した。

2015年4月22日以降、ミヤコグサ、ネコハギは活着していることを確認できたが、2015年10月21日の時点でイヌハギは確認できていない。

\*茅ヶ崎市役所景観みどり課



図6. ミヤコグサ、ネコハギ等の移植状況

## 7 おわりに

後藤氏、石原氏のご教示では、庭園の管理をされている高柳氏、阿部氏が敷地内でヘビ類(アオダイショウか?), ホンドタヌキを確認されているとのことである。調査精度を高めることにより、脊椎動物を始めとする各分類群の生物が新たに確認できるものと思われる。

## 参考文献

- 神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌, 1584 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 茅ヶ崎ネイチャークラブ・三輪徳子・埜村恵美子, 1998. 茅ヶ崎市内の植物相調査から一初記録種及び分布が限られる種の記録. 文化資料館調査研究報告, (6):49-56.